

(別紙)

- 1 競技方法
  - ① 全チームによるトーナメント方式
  - ② 試合時間は、ロス込15分×3ピリオドとし、すべてランニングタイムとする。  
インターバルは3分、ペナルティータイムはロス込み2分間とする。
  - ③ 第3ピリオド終了時同点の場合は3人のゲーム・ウィニングショットを行い勝敗を決定する。それでも同点の場合は、キャプテンのジャンケン！
  
- 2 試合時間
  - ① 1Pロス込み15分×3 インターバル3分(練習5分)  
すべて、ランニングタイムとする。
  - ② 試合開始時間は、日程表に記載  
※練習開始時間ではないので注意すること
  - ③ 試合終了時のあいさつはブルーライン上のみとする。
  - ④ 試合開始時間は日程表どおり行うものとし、不測の事態が生じ、時間どおり試合ができない場合は主催者と協議するものとする。
  
- 3 競技規則 I I H Fルールを準用する。(一部ローカルルールを適用する。)
  - ① ボディチェックを禁止することとし、チェックした場合はマイナー・ペナルティ等を課す。(ボディコンダクトは可。)
  - ② 1試合4回以上ペナルティベンチに入った選手は次の試合に出場できない。
  - ③ 審判、オフィシャルに対する暴言、ヤジは一切慎むこと。
    - a オフィシャルの判定に異議を唱え又は抗議した選手  
ミスコンダクト・ペナルティ (10分間)
    - b その選手がさらに執拗に抗議した場合  
ゲームミスコンダクト・ペナルティ (残り試合時間出場停止)  
※1大会において、ゲームミスコンダクト・ペナルティ2回受けた選手については、青森市アイスホッケー協会懲罰委員会にかけて処分を決定。  
処分決定まで残りの全試合出場停止
  - ④ ヘルメットについて  
フルフェイスマスクを装着することとする。  
ただし、ハーフバイザー (無色透明のみ可) の装着については、次の条件をすべて満たした場合に認めることとする。
    - ・ 19歳以上であること。
    - ・ マウスガードを着用すること。(申請不要)  
マウスガード着用の有無は、試合開始前にブルーラインに整列した際にライズマンがハーフバイザーの選手のマウスガード着用状況を確認し、着用していない場合はそのままでは試合に出場できない旨、選手に伝えるとともにレフェリーに報告する。  
その後、当該選手がマウスガードを装着またはフルフェイスのヘルメットを装着したことをレフェリーが確認した後、出場を認める。
  - ⑤ ネックガードの着用について  
女子及び18歳以下のプレイヤー及びゴールキーパーはネックガードの着用を義務付けることとする。(GKでネックガード一体型のショルダーを着用する場合を除く)

ネックガード着用の確認及び出場の可否は、マウスガードと同様の取り扱いとする。

⑥ 懲罰委員会について

選手及びその選手の所属するチームについて、懲罰について協議を要する事例が発生した場合、レフェリーは、青森県営スケート場、青森市アイスホッケー協会総務部に対し速やかに報告することとする。青森市アイスホッケー協会総務部は審判部、競技部と連携し、係る事例について調査を行い、必要と認めれば委員会を招集する。

- 4 反則時間      マイナー・ペナルティ      ロス込み2分間（計測はペナルティベンチで行う）  
メジャー・ペナルティ      ロス込み5分間（計測はペナルティベンチで行う）
- 5 試合出場人数      22名以下（試合開始時リンク上に6名（GK含む）に満たないときは不戦敗とする。）  
各チームは2セット以上出すよう努力すること。  
ベンチは、選手22名、監督、コーチ、ドアマン、マネージャー3名以内とする。
- 6 審判      レフェリー、ラインズマン2名は、当日オフィシャルのチームが責任をもって担当する。
- 7 オフィシャル      当日担当のチームが責任をもって行う。  
記録係2名、放送係1名、電光掲示板操作係1名、ペナルティボックス2名、ゴールジャッジ2名  
※記録係は、試合結果を正確に記録すること。
- 8 表彰      青森市アイスホッケー協会リーグ戦表彰式と同時に行う。
- 9 事故について      試合中に起きた事故については、応急処置は行いますがその後の責任を負わないので、各チームで必ず傷害保険に加入すること。
- 10 その他      ① ユニフォーム  
選手は、セーター、パンツ、ストッキング及びヘルメットを着用するものとする。  
セーターは原則として全員同じものとするが、チーム事情等により、同じものが準備できない場合は、メインカラーが同じものを認める。また、ゴールキーパーは選手と別色のものを認める。ただし、レフェリーが、ユニフォームの色が紛らわしく、ジャッジを誤る可能性がある判断した場合は、別のものに替えること。  
② レフェリーのジャッジに対する確認について  
レフェリーのジャッジに対する確認について、キャプテンまたはキャプテン代行のみがレフェリーと話をする特権を有する。原則として、キャプテンは「C」、キャプテン代行は「A」のマークをユニフォーム前面の目立つ場所にしなければならない。